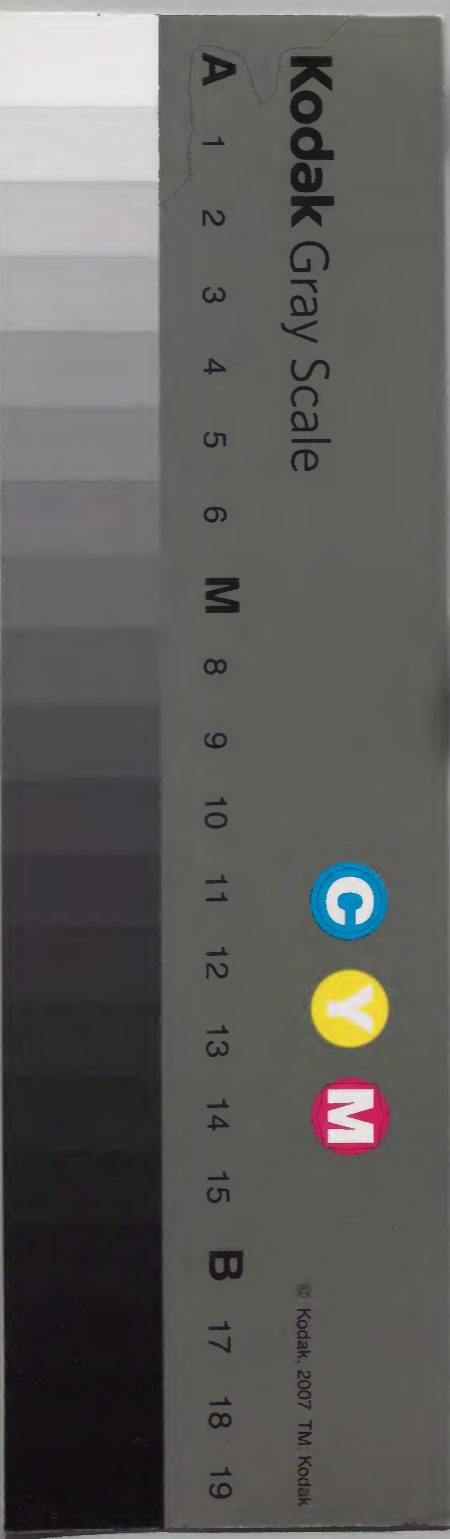




和書門
八二四二八
七八二一
冊架密號類

内閣文庫	
番號	和 8481
冊數	7 (1)
函號	199 44



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

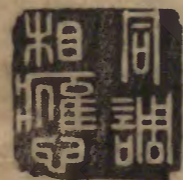
大枝流芳先生編述

雅遊漫錄

浪華

稱觥堂
揚芳堂

全梓



雅遊漫錄序

余少年時寓於系師。偶遊西山之泉谷。見古址。如有隱人自辨。滌然為野。初草居。采於山。約於水。大有道人。之風。而翁本同鄉。人以多病之故。不於世。交。慕水土之美。來富京城。擇幽

閑之地。棲止焉。人以翁為好茶
理之人。問之。則曰。予也。辟人之
情。良倦。送迎。難禮。裝。後。從心。所
適也。茶則山人之物。茶理。則吾
不知焉。人或問其所樂。則曰。昔
人有言。氣不擗。硯。盜不竊。書。明
窗。淨几。一人。工。所易。清泉。白石。中

音。松聲。不迎而來。不送而去。吾
之所不惜。山人。亦有。長樂。而已
矣。又問其所病。則曰。山人。市人
之。睡。觸。侯。樂。世。也。相。鑿。金。不。疾
者。安。能。可。得。而。辟。乎。泉。石。入。音。
烟。霞。入。骨。終。身。之。痼。也。抑。亦。之。痼。
氣。平。為。年。之。後。拂。樓。信。毒。在。空。

城之北。隱壑之曲。分羨水之義。扁於居曰。青溪。依地系取。弼曰。川朝。神黃庭。善歌。果文。道意。間。步。与。何。移。系。探。梅。分。孤。步。月。踏。靈。其。道。非。山。人。之。際。氣。人。皆。以。為。愛。人。杜。於。此。因。叩。其。扉。數。其。者。弱。曰。是。無。他。乃。於。窺。山。人。之。

居。如。何。身。世。人。之。好。羨。也。或。其。然。今。也。與。其。為。隱。人。之。隱。也。豈。若。為。辟。世。之。隱。者。心。懷。別。每。取。不。信。山。人。者。無。不。山。人。者。之。形。河。以。羨。隱。世。於。朝。廷。古。猶。有。多。市。中。非。亦。可。以。辟。事。遂。以。甚。事。之。技。遊。於。象。貴。佩。劍。揮。裘。翩。

雜錄卷之二

第(三)

翁老於世時也。夫誰得為舊時
 泉石隱人。網島閑人。即是此人
 也。市中果非可醒乎。其好學諸
 子百家無不窺。本邦如多矣。所
 傳。悉收其秘。嘗著瓊音之書。為
 在日已行世。嗚呼。吾以此稿遺於
 玉肆。今成乞校。余於翁可稱者

識照若翁之所為。余何能以
 若夫以訂証。魯奧固余分裁也
 乎。固取其稿。百復為誦。蓋其所
 纂。盡矣。文房瓊音。臥游之友也。
 吾人所依。旅裝。素遊愛之。引
 也。可以方。行。碎錦。錦。不
 而。取。維。圖。維。說。多。助。學。後。聲。教。

藤達漫錄卷之一

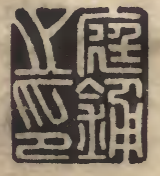
四〇三

於竹音託於絲。扣是字始可為
山水清音。結珠之技。繫流石。結
同心。巧樣百出。不知其所自始。
有^ル如^キ觀^ニ后^キ蛇^キ結^キ之^キ妙^キ者^キ。亦^キ投^キ壺
何^ナ者^ル。有^ル矣^ル。至^ル。君子樂之。凡^ソ百
所用。揮^テ取^テ質^ト朴^ト。澗^ク色^シ自^レ然^ト。誅^ニ有^ル
山人^ト者。題^テ曰^ク雅^ト遊^ト。珠^ト玉^ト。俾^ル人^ト

雅遊。山人俾書雅遊。亦以山人
而為求山人。而歌雅遊。則為一生
中^ニ一^ニ事^ト。

寶曆乙亥初冬

大江都庭鐘撰



雅遊漫錄卷之一目錄

器物總論

書厨ホンバコ

硯附名物古硯圖

帛

水滴ミツイレ

書

筆

墨

朱錠シユスミ

壓尺ケイサン

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including a large seal impression.

雅遊漫錄卷之一目錄終

雅遊漫錄卷之一

浪華 大枝流芳 著

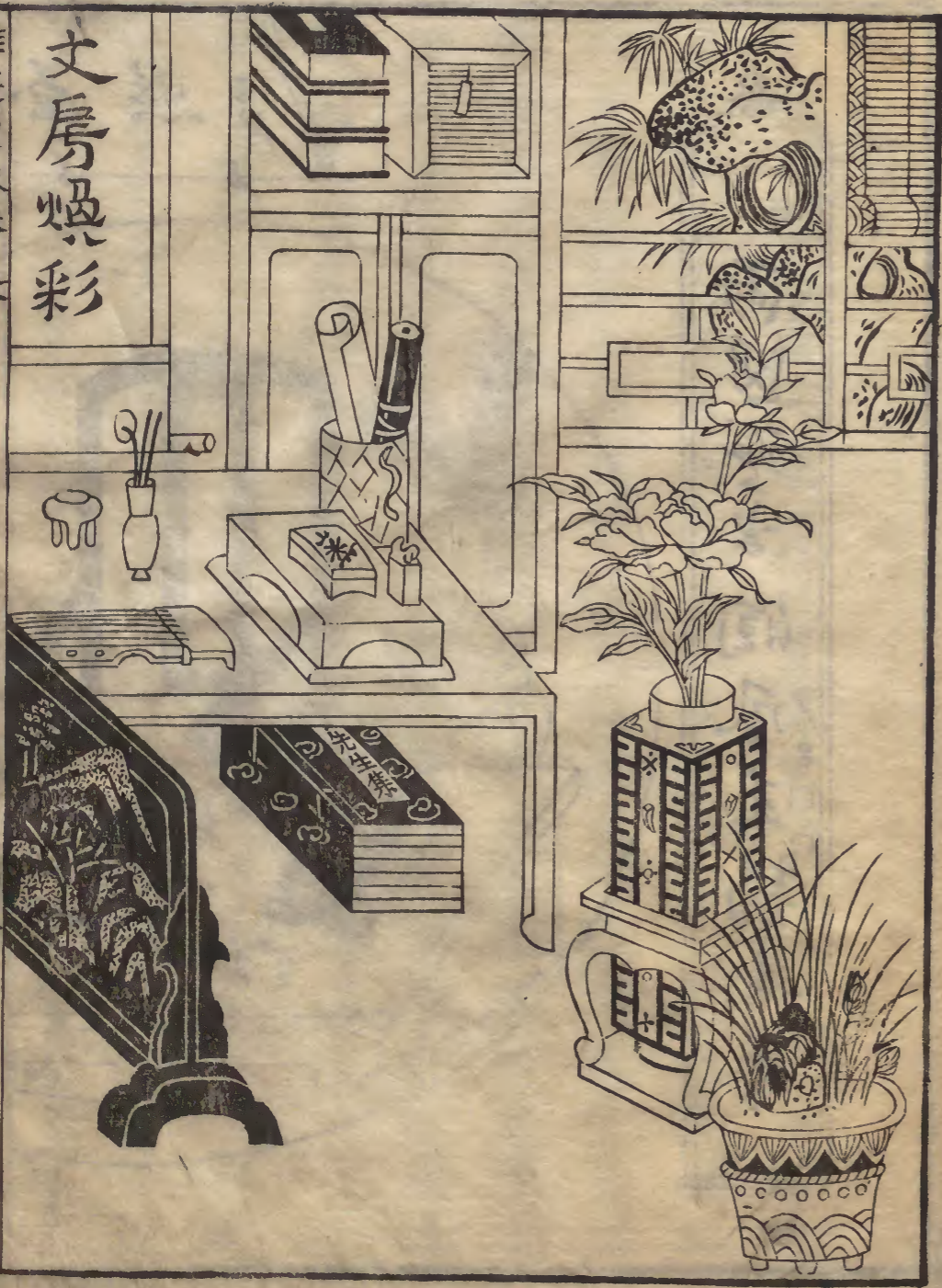
器物總論

小窓清紀曰清事不可著跡若衣冠必求奇古器用必求精良飲食必求異巧此乃清中之濁吾以為清事之一蠹

人のとして酒をたぐくも主人の心はさうもはかり俗くして雅なうさるゝはハツクともふさう志うりとしてさうりと抱め合流とちつとるたうさるゝはハツクともふさう志うりとしてさうりと抱め合流と雅なうさるゝはハツクともふさう志うりとしてさうりと抱め合流と

一、紙を執りて必と執りて質を為すものを用ひのよふつ
 のことくあそびまふしやと書筆の類も異れたるはた不可
 不使ありとてべくの具形のものに必用とありて物を自ら
 不とんりつてのものも用ふ不使ありとんものハ筆物なり
 ちととととと紙玩の類ハ俗なるとありては
 飲食の器と紙とをとりては本邦とよ書の業人のごとくちけ
 うわると器と飲食のものも用ふハ甚うあつてはあつて人道知人の
 いふにぞとすふありて

功名美器造物惜之、不與人、全人固欲之、天必奪之
 湛堂記聞



文房煥彩

雅遊漫録卷之一

五照



雨窓書潤風來翰墨香

其書

書

丁度之祖顓盡其家貲以置書至八千卷且曰吾聚書多矣必有好學者為吾子孫度力學有守登服勤學科仕至參政曾子固平生嗜書家藏至六萬餘卷手自讎對白首不倦此儲書遺其子孫者也孟子有賢父兄之言惟以書教子弟者而後為賢晉人有佳子弟之目惟從父兄之教而知書者而後為佳

養老新書

聖人の教とてとて書の遺一傳ふつらりたてし時ハ後世何ふらうらん又ハ貫道のそよそよ書のそよむだそよそよのそよそよ賢人そよそより人の迷とそよそよもそよそよ書の種なり

書櫃圖

三才圖會のよる中夏の箱の圖なり



筆

筆硯精良人生一樂とて筆と硯を好むは如僕もも其精良を
 入事と好むは硯ハ精微なりとて筆も亦好むは其好むは
 是ハ使運指しごとく字書字字よくあつて其良とて筆硯
 新解硯硯より船来のもの其筆も亦其筆あり世にこれハ筆硯
 良工あり船来のものありは硯を以てこれ筆を以てこれ
 沸湯よひこれ硯をきく後つるべし筆久しこれたものま
 ちよ筆を編むるは硯は脂紙アツラカミを拭べしこれ筆を
 ちよ筆を編むるは硯は脂紙アツラカミを拭べしこれ筆を
 とを硯をけし録ケサキを換へやきし固く古人筆硯のりけり

殺風景矣質潤生水自是硯之上乘譬之禾生合穎麥
 秀兩岐可謂多得一石穀終直二百錢乎蕭穎士謂石
 有三灾當併此為四也小窓清記云文士之有硯猶美人之有
 鏡一生最親故鏡用秦圖端用宋坑也
 又云くよに硯ハ新人の居た終はては交とつく凍るよ
 せんハ糸の具ハさうそくも是ハよさうはとえくぶへ
 又くよせもそくも硯石と集く回後ふそく

江州高嶋

青色羅文

長州赤間關

紫色 又青色以青為貴

播州赤石

今作明石海底各赤色之石也因号赤石
彫之用硯甚良也

若州宮川

日本硯石無若之端溪石敵之濃紫潤精
無双并

城州嵯峨

此地出磨礪尤良也如硯石古人賞之
為家郷歌

人かこもやほせのさるはそとまるとそく
 千首あそび集のせり
 元戴良九靈山房集僧闡奉使日本得清瀧石硯
 求為銘銘曰盪茲硯産東夷為有靈源知所歸嗟
 彼世人胡不思
 嵯峨法勝石中夏も考せり事くのじとてけちふ不考ハ何ぞや
 黄色 黒色二品 又同州檜川より産るる硯人
 めく硯はゆるあふの名所とらふよふり

作州

多産下品

佐州海石

海底の石や一歳ふ一歳三月三日御印をとまらて
とれを字は命をさすはまらるる事と校成よ
つせり稀なり

和州橘寺舊瓦

硯子用ひとらうと銅雀美央ととおと
雅人こととと考す

江州志賀都舊瓦

天智天皇の四年の跡あり中す古瓦
とわと雅人らと硯子用ひと考すこの古瓦

取あり先年彼ちとよごりく
これとよごりめはこり

自然硯

日向國うごの溪と云ふ所ありあり世所のふ大小あり
自然あり硯なり天工の妙歎どる

都府樓瓦硯

貝原氏曰筑紫都府樓瓦異邦より来りて
精緻堅潤如泗濱石土人往往有為硯而

貯藏之者可貴重其遺址今猶存焉而無全瓦
菅相國詩曰都府樓唯看尾色

右に好尚者石州ありと久とと余未考後子の補と

まのけちふりあるさ名記がしきまむこの外王候貴舟のあり

為と所はとのありありととことくをあらへん

今又又よまうせふは

名物古硯

亞相時朝之硯

鼻祖鎌子連 住吉大明神より感得れ
硯なり

松蔭硯

智恩院乃什お趙州宋王平法盛ふありと一硯なり紫石
堅七寸五分換写八分厚さ一寸五分元氣精英の篆字あり

壬生忠峯硯

系壬生寺什お紫石堅四寸五分換写二分あり

紫式部硯

江列石山寺什お源氏め終とりのさし硯の

鳳足硯

後水尾帝の御硯水々光團の路あり長一尺許
七寸厚さ一寸五分とる

殘月硯

石川丈山翁の硯城列一修寺村の硯台什物蓋ハ
唐物大岡秀玄政所 後室の蓋なり

ぬぶく 利休所持 か

うぬえ

此之硯名物也載る所をりてまへハ

本硯ハ懐中ふぶきうううてうう

傳玄硯賦云木貴其潤堅劉道友以浮查為硯知玄亦

有木硯と云へり 東谷李之彦硯譜

まぶく硯ハたびく 硯のうさやう

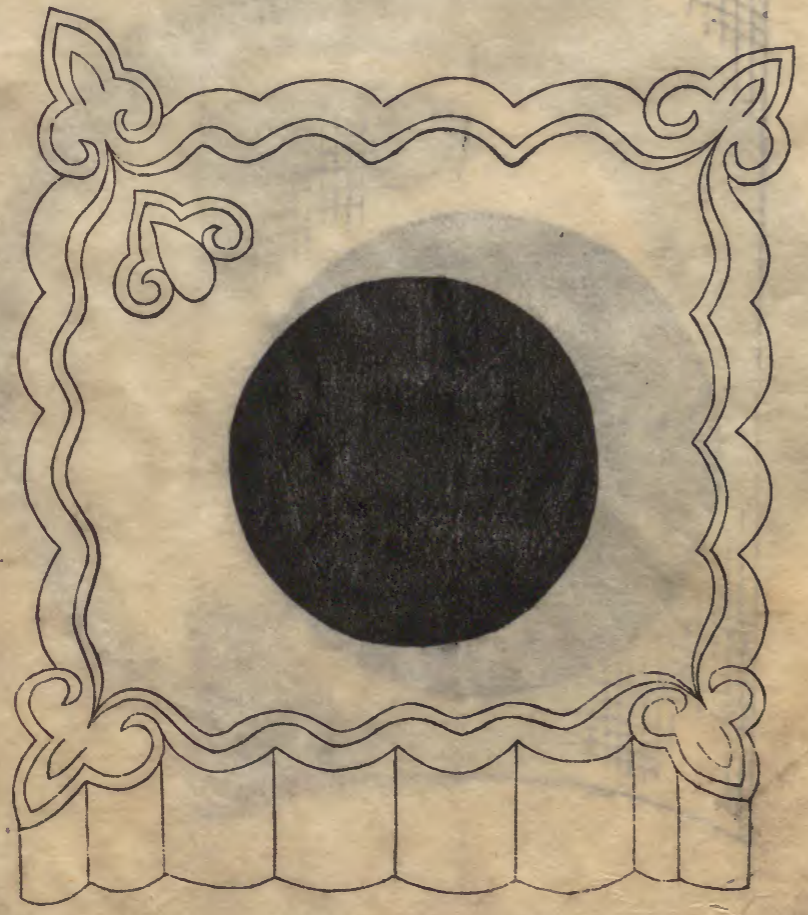
墨のうさやうと筆と流るるをいふ

あつと云ふなり

銅雀臺

瓦硯圖

厚二寸
徑七寸
角徑八寸



古瓦硯圖



殘月硯圖



米元章古瓦罌鳥硯圖

長七寸濶四寸尾上有銘



松蔭硯肖圖



忠峯硯圖



老學菴筆記曰謝景魚名倫滌硯法用蜀中貢餘之紙
先去墨徐以絲瓦磨洗餘漬

とらここの書法中方遜志及宋景濂集の中日本の硯と書
とすべしとらここハ日本の硯と書一日本一とらここ
この硯と書とらここ俗情をり用ふるもの毛髪を洗はし
けごとく研きおとせぬ賞すまで研まうとらここ用よう
そのと書べし

墨

墨ハ色を極よく艶あるものとすしとらここ新の制法とらここ
膠氣いまごとく研きおとせぬ賞すまで研まうとらここ用よう
そのと書べし

古人養墨以豹皮囊欲遠其濕又云宜以漆匣密藏之
欲滋其潤五雜俎

然藜餘筆曰司馬溫公無所嗜好獨蓄墨數百劑

書影曰今時玩墨不磨墨看墨不試墨錦囊漆匣羊質

虎皮俗人不識其為白為黑良可笑此新都程干止

語真中今日墨弊

こまごま〜〜と墨を好て弄玩する者一人あり〜とそ
〜と〜と墨ふ〜と〜と法の好る水と糖より彩色彫
紋と〜と弊なり〜と〜とて物〜と〜と弊なり〜

う〜と墨も又房の雅具の二つなりとハ〜と〜とあり〜と〜と
於京師良ユ〜と〜と素を紙紙なり〜と〜と造り物なり〜と
ふあ〜と紙紙とち〜と堪〜と

紙

天工開物云殺青宋子曰物象精華乾坤微妙古傳今
而華達夷使後起舍生日授而心識之亟載者以何物
哉君與民通師將弟命馮籍咕咕口語其與幾何持寸
符握半卷終事詮旨風行而水釋焉覆載之間之籍有
楮先生也聖頑咸嘉賴之矣身為竹骨為木皮殺其青
而白乃見萬卷百家基從此起云云

ちりやんねニをくも世法よく然らるるあり

朱錠

是又文房中なる毒をあらはくしむるもの也と云ふはと推むべし
朱のあくものとあおしてあざむく製せしものハきやく書
てよく清むるはよく又たこの毒と残よと云ふつゝも
朱錠と云ふは祝毒とありと云ふ命とあり減く用也なり石合ハ
きやく朱錠と云ふは下りてくつてけりてと云ふ
藍錠と云ふは人あり是もよく朱と云ふつゝもは帳書と
とく膠と云ふは

造朱錠法銀朱研細用水飛過澄清搦去水用素皮搨

子皂角各一分巴豆一粒去皮黃明膠半兩同煎汁和
銀朱作錠子陰乾 陳元靚之說

朱錠ハ世より製して賣ふと云ふは減く用也なり一祝毒
たまりハ草薺の乾くはよくと云ふハのよくはよくあり
又磁差の香盒よくと云ふはよくあり

水滴

是又文房の股肱文房中関ぐるものなり

矐仙神隱曰水滴銅性猛烈貯水久則有毒多脆筆毫
磁者本好只是材氣莫如竹取一節長二寸計以小竹
挿作觜以箏壳置一盖於上甚是標格清致誠野人之

物也

ころふ云竹の水漏の製ち邦^{ニツギレ}と申古よりありあはし^{ニツギレ}節を
 ね^{ツチ}一^{ツチ}嘴ハふの小竹を石刃節の先と切の^{ツチ}て細く削りて
 とつけ^{ツチ}穴をあけく^{ツチ}あ^{ツチ}と通じ^{ツチ}膠仙の製ち又^{ツチ}後より竹を
 の^{ツチ}ら^{ツチ}く^{ツチ}く^{ツチ}経格好く^{ツチ}長ハ^{ツチ}流^{ツチ}し^{ツチ}水漏^{ツチ}文^{ツチ}日^{ツチ}ハ^{ツチ}あ^{ツチ}け^{ツチ}り^{ツチ}
 後^{ツチ}若^{ツチ}あ^{ツチ}け^{ツチ}る^{ツチ}水^{ツチ}ハ^{ツチ}毎^{ツチ}朝^{ツチ}の^{ツチ}申^{ツチ}の^{ツチ}時^{ツチ}ハ^{ツチ}後^{ツチ}細^{ツチ}細^{ツチ}竹^{ツチ}を^{ツチ}と^{ツチ}し^{ツチ}
 あ^{ツチ}く^{ツチ}さ^{ツチ}り^{ツチ}筆^{ツチ}と^{ツチ}損^{ツチ}し^{ツチ}墨^{ツチ}を^{ツチ}た^{ツチ}り^{ツチ}て^{ツチ}患^{ツチ}を^{ツチ}し^{ツチ}次^{ツチ}翰^{ツチ}林^{ツチ}の^{ツチ}生^{ツチ}活^{ツチ}は^{ツチ}
 口^{ツチ}用^{ツチ}生^{ツチ}水^{ツチ}新^{ツチ}汲^{ツチ}不^{ツチ}可^{ツチ}交^{ツチ}停^{ツチ}と^{ツチ}り^{ツチ}もの^{ツチ}と^{ツチ}書^{ツチ}く^{ツチ}も^{ツチ}生^{ツチ}あ^{ツチ}り^{ツチ}毫^{ツチ}
 と^{ツチ}損^{ツチ}の^{ツチ}し^{ツチ}し^{ツチ}あ^{ツチ}り^{ツチ}ん^{ツチ}
 其^{ツチ}外^{ツチ}生^{ツチ}相^{ツチ}葉^{ツチ}氏^{ツチ}ホ^{ツチ}人^{ツチ}物^{ツチ}を^{ツチ}い^{ツチ}ふ^{ツチ}他^{ツチ}り^{ツチ}る^{ツチ}せ^{ツチ}ら^{ツチ}る^{ツチ}もの^{ツチ}あ^{ツチ}り^{ツチ}世^{ツチ}は^{ツチ}あ^{ツチ}く^{ツチ}知^{ツチ}る^{ツチ}

所^{ツチ}を^{ツチ}も^{ツチ}と^{ツチ}を^{ツチ}く^{ツチ}く^{ツチ}よ^{ツチ}畧^{ツチ}と^{ツチ}す

顧^{ツチ}え^{ツチ}慶^{ツチ}り^{ツチ}山^{ツチ}房^{ツチ}十^{ツチ}友^{ツチ}中^{ツチ}小^{ツチ}陶^{ツチ}を^{ツチ}と^{ツチ}り^{ツチ}て^{ツチ}水^{ツチ}漏^{ツチ}器^{ツチ}の^{ツチ}水^{ツチ}漏^{ツチ}を^{ツチ}り^{ツチ}又^{ツチ}
 小^{ツチ}残^{ツチ}小^{ツチ}七^{ツチ}と^{ツチ}そ^{ツチ}を^{ツチ}り^{ツチ}て^{ツチ}あ^{ツチ}り^{ツチ}て^{ツチ}用^{ツチ}く^{ツチ}も^{ツチ}雅^{ツチ}なり^{ツチ}

ケサシ 壓尺

洞^{ツチ}織^{ツチ}輪^{ツチ}石^{ツチ}を^{ツチ}い^{ツチ}く^{ツチ}他^{ツチ}の^{ツチ}事^{ツチ}を^{ツチ}考^{ツチ}わ^{ツチ}り^{ツチ}て^{ツチ}来^{ツチ}取^{ツチ}る^{ツチ}と^{ツチ}り^{ツチ}て^{ツチ}製^{ツチ}す^{ツチ}
 雅^{ツチ}後^{ツチ}と^{ツチ}篆^{ツチ}書^{ツチ}を^{ツチ}い^{ツチ}く^{ツチ}嵌^{ツチ}め^{ツチ}る^{ツチ}もの^{ツチ}と^{ツチ}す^{ツチ}て^{ツチ}雅^{ツチ}なり^{ツチ}と^{ツチ}す^{ツチ}
 後^{ツチ}より^{ツチ}と^{ツチ}す^{ツチ}依^{ツチ}て^{ツチ}い^{ツチ}く^{ツチ}不^{ツチ}雅^{ツチ}なり^{ツチ}

遵^{ツチ}生^{ツチ}八^{ツチ}牋^{ツチ}曰^{ツチ}壓^{ツチ}尺^{ツチ}有^{ツチ}倭^{ツチ}人^{ツチ}鏤^{ツチ}金^{ツチ}銀^{ツチ}壓^{ツチ}尺^{ツチ}古^{ツチ}所^{ツチ}未^{ツチ}有^{ツチ}尺^{ツチ}狀^{ツチ}
 如^{ツチ}常^{ツチ}上^{ツチ}以^{ツチ}金^{ツチ}鏤^{ツチ}雙^{ツチ}挑^{ツチ}銀^{ツチ}葉^{ツチ}為^{ツチ}紐^{ツチ}面^{ツチ}以^{ツチ}金^{ツチ}銀^{ツチ}鏤^{ツチ}花^{ツチ}皆^{ツチ}綠^{ツチ}環^{ツチ}
 細^{ツチ}嵌^{ツチ}工^{ツチ}緻^{ツチ}動^{ツチ}色^{ツチ}更^{ツチ}有^{ツチ}一^{ツチ}竅^{ツチ}透^{ツチ}開^{ツチ}内^{ツチ}藏^{ツチ}抽^{ツチ}斗^{ツチ}中^{ツチ}有^{ツチ}刀^{ツチ}錐^{ツチ}鍔^{ツチ}

又キツベキリヤウジレミハラヒミカキハサミアリ
 刀指剉刮齒消息究耳剪子收則一條掙開成スナサハ剪謂之
ハ八面埋伏盡于斗中收藏云云
 此製個天信婦よと途利の敷如信の敷八徳と云々此向

雅遊漫錄卷之一終

